



ブルーベリー

74 編は **マスクील** (「瞑想的詩」の意味)。**アサフの詩**。と端書きにあります。瞑想というよりは憤怒、悲嘆の色合いです。これは歴史的事件、エジプト王シシャクの侵攻、掠奪が背景になっているようです。ソロモンはダビデの遺志に従い、20年の歳月を費やして神殿建築を果たしましたが、40年間の治世の末期に多数の王妃、側室に心迷わされ、主から離れて、他の神々のために高台を築きました。富の代償に、幻想、心の荒廃を持

つようになったのでしょうか。王国は息子レハブアムが王位に就くや否や、ユダ王国とイスラエル王国に分裂しました。民族同士の戦いだけではありません。**レハブアム王の治世第五年に、エジプトの王シシャクがエルサレムに攻め上って、主の神殿と王宮の宝物を奪い取った。彼はすべてを奪い、ソロモンが作った金の盾もすべて奪い取った。(列王上 14:25)**「金」の盾は愚、無駄の象徴でしょう。

詩人は自分たちは主が **養っておられた羊の群れ(1)** **いにしえから御自分のもの(2)** **御自分の嗣業の部族として贖われた会衆(2)** と受け止め、これまでの導きを思い起こし、掠奪の跡をみて **永遠の廃虚となったところに足を向けてください。敵は聖所のすべてに災いをもたらしました。(3)** と、嘆き悲しんでいます。**あなたに刃向かう者は、至聖所の中ではえ猛り／自分たちのしるしをしるしとして立てました。(4)** 敵は大祭司だけが年に一度入る至聖所をも冒とくしたのです。敵は斧、手斧、鉞、まさかりを振るって打ち壊し、火をかけました。神殿だけでなく **この地にある神の会堂をすべて焼き払いました。(8)** と、弾圧したのです。王宮は勿論のこと、神殿も為すすべがありません。最悪と思えることはわたしたちのためのしるしは見えません。今は預言者もいません。いつまで続くのかを知る者もありません。(9) と信仰の導き手がいない悲しみです。詩人は **なぜ、手を引いてしまわれたのですか／右の御手は、ふところに入れられたまま。(11)** と不平、不満を神にぶっつけています。

けれども詩人は神の圧倒的な力を思い起こしています。**御力をもって海を分け(13)** 出エジプトさせて下さった神、**竜の頭(13)** **レビヤタン**(蛇のような姿をしている邪悪な存在)の**頭(14)** である敵を砕かれた神、天地創造され、地や時を支配される神として賛美しています。

敵は **神を知らぬ民(18, 22)** **獣(19)**、であり、自分たちは **あなたの鳩 あなたの貧しい人々(19)** **虐げられた人々(21)** であり、私たちを顧みて下さいと切望しています。また、**地の暗い隅々には／不法の住みかがひしめいています。(20)** には、分裂し、新たにベテルに神殿を建てたイスラエル王国に対する思いも込められています。最後に、神以外に頼る方がいない民の苦しみを救うことは神の責任だと言わんばかりに、**神よ、立ち上がり／御自分のために争ってください。(22)** と、懇願しています。

『讚美歌 21』には関連する讚美歌がありませんが、私は 526「苦しみ悩みの」 [讚美歌のページ \(rgr.jp\)](https://www.rgr.jp) を賛美したいです。バッハによる変奏 <https://www.youtube.com/watch?v=jRq6wpXxQ0A> も素晴らしいです。ジュネーブ詩編歌は覚えやすいメロディから、フーガのような変奏に移っていきます。 [Psalm 74 Genevan Psalter - two settings by Claude Goudimel - YouTube](https://www.youtube.com/watch?v=jRq6wpXxQ0A)